

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価書面評価書(案)

[類型(領域): _____]

委員名:

機関名		整理番号	
プログラム名			
プログラム責任者		プログラムコーディネーター	

1. 評価項目について

(ア)リーダーを養成する学位プログラムの確立

- ①優秀な学生をグローバルに活躍するリーダーへと導く一貫した学位プログラムが整備されているか(プログラムの整備)
- ②コースワークや複数専攻制、研究室ローテーションをはじめ教育指導の内容が広範かつ体系的に整備されているか(カリキュラムの整備)
- ③専門分野の枠を超えて第一級の教員と緊密に議論するなど充実した研究指導が行われているか(研究指導の充実)
- ④優秀な学生が主体的に学内外で切磋琢磨し刺激し合う魅力的な取組が行われているか(切磋琢磨し合う取組の実施)
- ⑤学生の在籍する研究科・専攻との緊密な連携の下、学生への過度な負担の軽減にも配慮したカリキュラムとなっているか(学生の在籍する研究科・専攻との連携)

○評価

4. 非常に優れている 3. 優れている 2. やや劣っている 1. 劣っている

○コメント等(上記(ア)について優れている点、不十分な点等をできるだけ記入してください。)

(優れている点)

(不十分な点)

(その他)

(イ)産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性

- ①学生が俯瞰力や独創力等の汎用力を身に付けることができる見通しが得られているか、また、学生自身が成長を実感しているか(汎用力の育成)
- ②産学官民等の機関等が改革理念を共有しプログラムに積極的に参画しているか(外部機関の参画)
- ③修了者が各界のリーダーとしてグローバルに活躍する多様で具体的なキャリアパスの見通しを提示できているか、また、キャリアパス開拓のため、専任のプログラム担当者の配置や企業の人事担当者へのはたらきかけなど具体的な取組が進められているか(キャリアパスの見通し)
- ④共同研究やインターンシップをはじめ実践性を備えた効果的な研究訓練等が行われ、各学生に対して産学官民等の各界より高い評価が得られているか(学生への外部からの評価)
- ⑤修了者の社会での活躍状況を長期にわたり把握する仕組みの構築に向けて具体的な取組に着手しているか(把握手法の構築)

※①については学生アンケートの自由記述欄も勘案し評価してください。学生アンケートの自由記述欄はD1(博士後期課程1年)の学生のものを中心に評価してください。

○評価

4. 非常に優れている 3. 優れている 2. やや劣っている 1. 劣っている

○コメント等(上記(イ)について優れている点、不十分な点等をできるだけ記入してください。)

(優れている点)

(不十分な点)

(その他)

(ウ)グローバルに活躍するリーダーを養成する指導體制の整備

- ①国内外の多様なセクターから第一級の教員を結集した密接な指導體制や、メンターやTAの活用をはじめ組織的な支援体制が構築されているか(指導體制の構築)
- ②プログラム担当者、それ以外の学生の指導教員等の学内関係者のみならず、大学全体として改革理念を共有し共通理解をもって改革を推進・協力しているか(改革意識の共有)
- ③外国人学生・教員との関わり及び外国語の使用等によるグローバルな教育研究・生活環境が確保されているか(グローバルな環境整備)
- ④卓越した海外機関との連携・交流により国際競争力ある国際ネットワークが形成されているか(国際ネットワークの形成)

○評価

4. 非常に優れている 3. 優れている 2. やや劣っている 1. 劣っている

○コメント等(上記(ウ)について優れている点、不十分な点等をできるだけ記入してください。)

(優れている点)

(不十分な点)

(その他)

(エ) 優秀な学生の獲得	
①多様な背景を持つ優秀な学生を獲得するための工夫を行っているか、またその結果として優秀な学生を獲得できているか(優秀な学生の獲得) ②学生が学修研究に専念できる経済的支援を実施しているか(経済的支援の実施)	
	○評価 4. 非常に優れている 3. 優れている 2. やや劣っている 1. 劣っている
○コメント等(上記(エ))について優れている点、不十分な点等をできるだけ記入してください。(優れている点)	
(不十分な点)	
(その他)	
(オ) 世界に通用する確かな学位の質保証システム	
①グローバルに活躍するリーダーとなるに相応しい資質能力を保証する開かれた学位審査体制が構築されているか(学位審査体制の構築) ②Qualifying Examinationなど修得能力を包括評価する確かな質保証システムが構築されているか(質保証システムの構築)	
	○評価 4. 非常に優れている 3. 優れている 2. やや劣っている 1. 劣っている
○コメント等(上記(オ))について優れている点、不十分な点等をできるだけ記入してください。(優れている点)	
(不十分な点)	
(その他)	
(カ) 事業の定着・発展	
①学長を中心とした責任あるマネジメント体制が構築されているか(マネジメント体制の構築) ②客観的な数値目標の設定や外部評価体制等が的確で、産業界や学生の声等も踏まえた採択プログラムの検証・改善が図られているか(PDCAサイクルの構築) ③経費の支出内容及び規模は適切か(経費の適切な執行) ④支援期間終了後の学位プログラムの定着・発展に向けて、具体的な取組に着手しているか。また、それに加えて、採択プログラムに参画していない研究科や専攻も含め大学院全体として学位プログラムの導入に向けた具体的な取組に着手しているか(定着・発展のための取組状況)	
	○評価 4. 非常に優れている 3. 優れている 2. やや劣っている 1. 劣っている
○コメント等(上記(カ))について優れている点、不十分な点等をできるだけ記入してください。(優れている点)	
(不十分な点)	
(その他)	

2. その他

1. プログラム委員会の審査結果による留意事項等への適切な対応

○コメント等(上記1について優れている点、不十分な点等をできるだけ記入してください。)
(優れている点)

(不十分な点)

(その他)

2. 事前質問事項

(採択時の留意事項、フォローアップの指摘事項等も参考とし、書面評価での疑問点等、現地調査、**ヒアリング**時に大学側から説明していただきたい質問事項について、記入してください。)

①現地調査における事前質問事項(現地調査時に説明していただきたい事項)
(プログラム責任者・プログラムコーディネーターへの質問)

〈プログラム担当者(プログラム責任者・プログラムコーディネーター以外)への質問〉

②ヒアリングにおける事前質問事項(ヒアリング時に大学執行部から説明していただきたい事項)

(※ヒアリングにおける大学側の参加者は、原則として、学長、プログラム責任者、プログラムコーディネーターを含む4名を予定しております。なお、当該質問事項については、現地調査実施後に新たに追加することが可能です。)

※ヒアリングにおける事前質問事項は現地調査後に「現地調査報告書」に記入いただきます。

3. 中間評価現地調査時の要望

(※出席者、スケジュール、視察場所への要望などについて記入してください。なお、記入に当たっては、中間評価の手引きのP. 439〇〇に記載の「現地調査スケジュール(例)」をご確認ください。)

要望の有無(要望がある場合は「有」を、なければ「無」を入力してください。)

有

無

要望の詳細(「有」とされた場合は、具体的な要望の内容について記入してください。)